

WRI NewsLetter No. 52

1978年2月20日 発行 戦争抵抗会インター-日本部(WRI-JAPAN) 大阪府あべの区旭町2-12-2

省エネルギーフェア見物記

ウリ垂務所から地下鉄のりかえなしの一時間。見わたすかぎり団地が建ち並ぶ千里中央駅には、まるで舶来イナカのような人造タウンだ。そこの読売文化ホールで、省エネルギーフェアなるものが、関西電力主催政府諸団体後援で一週間行われている。広告をみると、子供劇場あり、藤本義一の講演あり、展示会ありと、お祭りのような雰囲気。

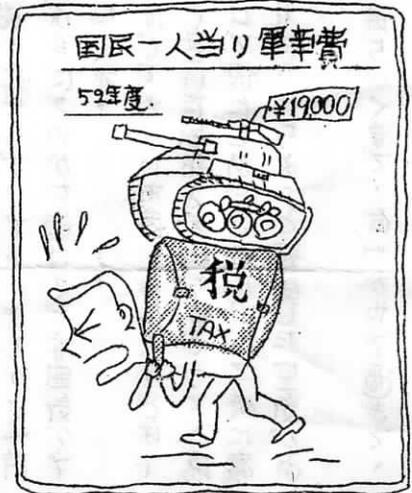
「資源を外国にたよっている日本では、いつエネルギーを枯げられるかもれません。みなさん、使わない部屋の電気は、すぐ消しましょう。洗濯は、脱水してからすすぎすると電気節約になります。…」と叫びかけているのだ。この叫びかけは、内容をみると相当な説得力をもつ。そしてどうしたことか、原子力エネルギーには一切ふれていないのだ。切角、南電サンがつくつてくれた「反原発についてせめて一言、表明できる好機会、」^{のちのち}「市民の会」がでかけるといっているので、身軽で軽薄、さっぱり力がないのがウリの身上「私たちが「しよ」と、最終日の12日、身なりを正して市民の目まいてよろしく出かけた。ところが入口はガードマン氏やバツジをつけた乗電職員がらウラウラうろろしているともあれ、るり子はんと私の二人がまずはいる。入名のほどでも、念Vがうごきやう

自民大学入試問題

灰色は、シロであることを証明せよ

(ロッキード高宮)

いよう、こちらに注目なみきつけようというのが、心中の作戦。ところが、なんや、ホールというのは劇場で、その入口ロビーに、ちやっと展示パネルがならんでるだけ。こりやせらい山規模やないか。あんなに大喧嘩してたので、どんなかと思うたのに、



本紙は無料ですが、毎月おまもりという方は、宛名記入・知用切手貼付の封筒を10枚ほどまとめて、送付用としてお送り下さい。

○ 本紙を送る封筒の印手にはのりがぬつてあります。消しごみでスタンプをけしエレクションに利用を。

この千ゲハゲさもちとおかしい。が、文句をつけるにも何もタネも材料もない。

「しやあない。まがけの電車で冗談半分合せたお祭り^{（お祭り）}に役らしい劇電説明員のとこへ近よつて

「あのう……ここに説明してあるように、こまめに電灯を消したら、どれ位の節約になりますの……うちこは一ヶ月二千五百円ほど拂うてますのやけど……」

「それはですね……ちよつと待つて下さいヨハ何やら表み付いなもん持つてきて」エーツと、例えは10割節約したとして百二十円；閉電需要家七百万軒ですからみなさんがそうして下さると七千万割一八億なんぼ円になるわけですよ……」エー、百二十円で……」

「そのへ何井^{（おつて）}さんがわつてはいつて、横から大声で、
「ふうさん。せんなもんなン本節約したかアカンアカン。今日こへ見にこようなうことで、ゆうぐ君と論争したときもなうアヤ。どんなに節電をがんばつても、月千円もなれへん。せんなことに神登くばる方こそエネルギーのムダちゆうさんや。わえ閉電さん。大体家庭用電力は全電気消費量の17%や。國民全部がいぎの半分しか使わんようにしても、全体の10%も節電にならん。節約してもらわなあかんとは他にあら、たとえはトヨタ自動車。クルマは石油くいますで、例えは松下電器。次々に電化製品つくりますくつて、これは、エネルギー浪費奨励会社や、こんな会社の送電

を半分にするとか、ストツプしはつたら、ケタちがいの省エネルギー効果があるんちがいますか。

「ふうさん、せんな、なんぼ節約にならなうて考えるのはやめとき……」

「ほんまやなあ。この展示が個人家庭向けばかりというのオカシイわ。まず会社向けの「省エネルギーフェア」せんと片手おちや……」

「いや、それは、おたくらの女物れるのも、ごもつともで、企業へいろいろお願いしとります。それにしてもお宅はなかなかおもしろいご家庭ですな」
「なんていうやりとりをサクラになつてやつたわけ。そつとこのやりとり、他の入場者にきいてもらおうと、るり子はくなど「あーら、ふうさん、何話してるとなんで、びつくりする位大声だしたりしたが、会場がざわわわして、みんな子供劇場へ行つてしまつて、殆ど止らさず。でも、ともかく一時向ちかく、すこぶるにこやかな顔付きと雰囲気ので閉電サンに迫つた次や。

「か」名のるほどでもない市民の10人ほどは、原裝はどのんだと書いた風船を手にもつて入場したのだが、入口で係らしめられたり、子供に渡した風船をとられたり、ちよつと緊張した空気があつたようだった。

12時半から4時ちかくまで、何やかやで過ぎて、

○ ウリニム5号掲載「東ア反日武芸戦線へ公判速報」お申込み下さい。カンパ一口千円（半）で送ります。（考）

つた。だが、オミにその石油がたしの程度を越えた浪費は加連度無敵大に拡大されていくことによつて、公害、環境破壊その他もろもろの精神腐敗をもつと生み出し、さらにあと数十年で、さしもの巨大な石油埋蔵量も枯過を予想されるといふ破局寸前に立至つた。

それはけわしい坂道をブレーキなしの車^{自走}で駆け降りているに似ている。止まるにとまれず、たひひたすら破滅へと棟ましつづけているにすぎない。とまれば、(以下略)当日は会場越満員七十名ばかりでした。

2月10日

緊急のロコミだけで、カー山人数だつたら日本へのウラン輸出阻止を求めているフオークさんいやオーストラリアの仲間たちにも申訳けないと、臨時のウリナム号外を出した。そのせいというより、共催畢縮故の力もあつて国中会館は暑すぎる位の人のいされすく横を通る現状天満駅の轟音で怒もあけられずの大盛況だつた。さて、かくことは一はいだかー

フオークさんは三ヶ月前ほど前メルボルンをたつて米欧、反原発運動の中を歩いて日本へきた。その最新の情報は、要約すると各国の運動は、体制側のみまがまな圧力と強行策と対峙しつゝ、量的質的に上向してある。むしろ圧しかえして優位に拮据しているといつてよい(日本はこれからだ)。とくに印象にのこつたことだけ紹介すると、④へ電話の木Vという伝達連絡の

方法。つまり、いざというとき、或は集会や新聞、情報伝達に「一人が二人に電話をかける」というのである。私たちも何とかしてこのへ電話の木Vを具体化したい。

⑤は「非暴力」か「暴力」かという問題。大衆運動団体で、たとえ「いかなる場合も永久絶対に、非暴力でやる」となどという決定や議論は不毛であり、無意味である。かりに決定されたも守ることができず、分裂や対立がすぐおこる。しかし、ある時ある状況での「非暴力直接行動」が具体的に提起されるときは、暴力主義者にも合意がえられるだろう。絶対という決定は、大衆組織ではないことがよい。(へその通りだと思ふ)

13日 奄美大島枝手久島の山田塊せさん来泊。枝手久、東燃石油基地のうごき再船動・隣町瀬戸田のむつ母港誘導運動・徳島島の核燃料再処理工場計画それに対応するうごきなど、コンミネーション運動との関係でいろいろきく。翌14日、宋手会さんからつと東前、山田さんと大いに話とむ。太郎さん東泊。

14日夜、スライド上映(戦争のための六四%)ついで大野さんを講師に入確定申告Vのかき方、実地講習。当夜きた^{うごき}十人その他がいよいよやる。

16日朝。確定申告書提出にいくYさん、そしてTさんWさんに同行、まず東大阪税務署へ。(この様子は毎日新聞に写真入りで大きく報道された。と参照)